

平成 29 年度 学校評価報告書（実施結果）

視点	4年間の目標 (平成28度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (8月19日、 3月5日実施)	総合評価(3月31日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・ 改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>特色ある外国語教育と国際理解教育を実践し、国際的視野を持った人材を育成する。</p> <p>「思考力・判断力・表現力」を育成する授業を目指し、授業改善を実施する。</p> <p>基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、主体的に学習に取り組む態度を養う。</p>	<p>これまで積み上げてきた特色ある外国語教育と国際理解教育を学校全体の取組として実践していく。</p> <p>アクティブラーニングに関する理解を深め、生徒による活発な言語活動が展開される活気あふれる授業を目指して、授業改善を推進する。</p> <p>生徒が主体的に学習に取り組む態度を養い、学習習慣の確立を図る。</p>	<p>実用英語技能検定に加えて新たにGTECを導入し生徒の学習意欲の啓発を図るとともに、生徒の英語力の伸長の度合いや授業改善の取組の成果を定点観測する指標とする。</p> <p>・英語宿泊研修のあり方について再検討する。</p> <p>・韓国ドンウォン高校の訪問受け入れ及び米国アサトン高校への訪問を実施し、諸外国のユネスコスクールと交流を深めるなどして国際交流を全校で実践する。</p> <p>アクティブラーニングについての校内学習会を開催し、授業改善を推進する。</p> <p>朝学習について、生徒が積極的に取り組むよう工夫し、継続的に実施する。</p> <p>・課業日及び長期休業中の補習・講習を実施する。</p>	<p>新たな検定試験を実施したか。</p> <p>・英語宿泊研修継続の課題を把握しその対策を検討したか。</p> <p>・姉妹校との交流を深めることができたか。</p> <p>アクティブラーニングについて職員・生徒の理解が深まり、授業改善が図れたか。</p> <p>生徒が積極的に取り組むよう朝学習の課題内容などを工夫・改善できたか。生徒の取組の様子が向上したか。</p> <p>・補習・講習を実施することができたか。</p>	<p>GTECを2学期始業式の日実施することとした。</p> <p>・1泊2日の英語宿泊研修を夏季休業中に実施することとし、1学年希望者より40名が参加した。(50名の応募があった。)</p> <p>・韓国ドンウォン高校からの訪問交流を実施した。米国アサトン高校へ15名の生徒が訪問した。</p> <p>アクティブラーニングについての校内研修会を8月23日に実施した。</p> <p>朝自習、平常補習、夏季補習・講習を実施した。</p>	<p>生徒が落ち着いて受検できるGTECの時期を検討する。</p> <p>・英語宿泊研修については募集人員、学年枠などについてより多くの生徒が参加できるよう検討が必要である。</p> <p>小テストと連動する朝学習作成など、今後も取り組んでいく。</p> <p>・生徒のニーズに合った補習、講習を実施し、早期に案内する。</p>	<p>GTECは先進的取組として評価する。</p> <p>・コースから全体の取組にするとの今年の目標は達成できた。交流は参加人数をもっと増やしてほしい。</p> <p>・交流で得られた成果を効果的に共有したい。生徒の参加を促進するような魅力的な講習をアピールし、参加を促がしてほしい。</p>	<p>GTECに向けた夏休みのワークブックについては取組不十分な生徒が見受けられた。</p> <p>・宿泊研修参加者は授業に対する取組に良い変化が見られた。</p> <p>生徒の学習態度の大きな変容までには至っていない。</p>	<p>ワークブックの活用方法を見直し実施時期について再検討する。</p> <p>対話的・主体的で深い学びを目指し更なる授業改善を推進する。</p> <p>日課の再編に伴い、生徒の主体的学習を促す新たな方策も模索・検討する。</p>
2 生徒指導 ・支援	<p>部活動の活性化を進める。</p> <p>交通安全指導を通してマナーの向上と事故防止に取り組む。</p> <p>人権尊重の精神を養う。</p> <p>生徒の個に応じた教育相談体制を確立する。</p>	<p>積極的な部活動が推進できるように指導体制を整えるとともに、予算や、活動場所の支援を行う。</p> <p>自転車乗車ルールの徹底を図り、事故防止を目指した交通安全指導を充実させる。</p> <p>スマホ使用をめぐるトラブル防止の指導に力を入れ、安全で安心な学校づくりに努める。</p> <p>職員の気づきの力や対応力を高め、協働支援体制によって情報を迅速に共有するとともに関係機関と連携し適切な支援が行えるよう努める。</p>	<p>学校行事とともに、部活動を「人間関係力」や「挑戦するマインド」を育てる重要な教育活動ととらえ、生徒主体の活気ある部活動の実現を目指す。当初の入部率が高まるよう、より一層の工夫を行うとともに、途中退部する生徒を減らすように努める。</p> <p>毎朝の校門指導で、挨拶や自転車乗車ルールについて指導する。また、交通安全教室に加え、年5回通学路安全指導を実施する。</p> <p>スマホ使用の正しいマナーを全職員で指導する。全校講話やSNSトラブル防止研修会を開催する。</p> <p>月1回のミニ研修で特別支援や不登校対応について全職員の共通理解を図る。また、スクールカウンセラーとの連携に加え、年2回の要請訪問相談を実施し、必要な関係機関につなぐ。</p>	<p>部活動の加入率を高め、退部率を下げ、全体の活性化が図れたか。</p> <p>乗車マナーの向上を図り、交通事故や苦情を減らすことができたか。</p> <p>スマホをめぐるトラブル件数を減らし、授業規律を高めることができたか。</p> <p>特別支援や不登校対応についての基礎的な知識を身につけ共通理解が図れたか。必要な関係機関と連携し、生徒および保護者に適切な支援が出来たか。</p>	<p>平成29年度の運動部の入部率、男子49%、女子32%、文化部入部率男子14%、女子36%であった。</p> <p>乗車マナーは、事故後の警察への連絡の必要も含め、1学期始業式・学年集会・各クラスで一貫して指導している。苦情は数件頂いたが、大きな事故は起こっていない。</p> <p>1年対象にSNSトラブル防止研修会を行った。</p> <p>授業中のスマホ禁止についても4月から教職員・生徒で確認し、おおむね授業規律が守れている。</p> <p>現在、SC、医療機関、教育センターに加え、SSW、児相と連携し、支援を行っている。また、担任の早期の家庭訪問が不登校解消につながった。</p>	<p>入部率が年々低下傾向にあるため働き方改革に伴う休養日の設定を機に、新たに活性化を図り入部率を向上させるような具体的な取組を検討する必要がある。</p> <p>乗車マナーは、今後も指導が必要である。</p> <p>電車内で生徒が盗撮に遭うケースもあり、警察と相談しながら対応しているが、警察との一層の連携が必要である。</p> <p>教員同士が風通し良く情報交換できる風土を今後も整えていきたい。</p>	<p>顧問に生徒一人ひとりを理解しようとする姿勢が感じられ、生徒も活動を楽しんでいる。専門でなくても、生徒の主体的な活動を活かしながら、できるサポートをしている点は評価する。</p> <p>第2東名の開通に伴う周辺の交通状況の悪化に備え、交通安全指導を強化すべきである。事故の被害者になった時の対応についても指導が必要である。</p>	<p>4月の新入生歓迎会での部活動紹介の際に部活動または委員会に入るよう促がしているが、生徒一人ひとりに十分に浸透していない点があった。</p> <p>事故や痴漢・盗撮を警察に通報する生徒が昨年よりも増え、生徒の人権や自衛の意識はより高まった。</p>	<p>学校説明会や合格者説明会でも、学校生活をより充実させるために、部活動か委員会に必ず入ることを周知させる。またHPでの広報活動を強化する。</p> <p>COを増員し、支援の必要な生徒をチームで協働して支える組織づくりを更に推進する。</p>
3 進路指導 ・支援	<p>一般受験の比率を上げるなど、生徒がより高いレベルを目指して第一志望を設定し、進路実現を果</p>	<p>「行ける大学より行きたい大学へ」という生徒の意識変革を実行し、全力で勉学に取り組み自らの進路を切り拓</p>	<p>校外模試を活用することの有効性を生徒・保護者に広報し、積極的な参加を呼びかける。</p> <p>・模試実施後の結果報告会で、生徒の学力やつまづきのポイントを把握し進路指</p>	<p>「一般受験」受験者の比率が5割を超えたか。</p> <p>・外部教育機関による報告会が適切な時期に実施できたか。</p>	<p>新しいカリキュラムや授業の量と質の確保について検討中である。</p> <p>・各種進路説明会や面談、また管理職からの講</p>	<p>大学への一般受験は41%で増えたとは言えないがAOや推薦入試は好調だった。また国</p>	<p>1・2年次も保護者面談をやってほしい。希望者のみだと子供が嫌がり、保</p>	<p>各種説明会、保護者面談を通して個々の進路先選</p>	<p>生徒の動向を早めにデータとしてまとめ、次年度計画</p>

視点	4年間の目標 (平成28度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (8月19日、 3月5日実施)	総合評価(3月31日実施)		
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・ 改善方策等		成果と課題	改善方策等	
	たすことができるよう支援する。 一人ひとりの希望に合った支援を行うために、相談体制の充実を図る。	こうという挑戦の意識を高める。一般受験に対応できる学力を身につけさせるためのカリキュラムや支援体制について教務情報Gの研究開発担当と連携して継続的に検討する。 学年や時期に応じて生徒・保護者向けのガイダンスを実施する。	導に活用する。 ・大学見学会、外部講師による講演会を実施し進路実現に向けたきめ細かい情報提供に努めるとともに、意識の向上を図る。 個人面談を年2回、保護者面談を年1回開催する。 ・各種説明会を保護者に開放し、生徒・保護者・担任教諭三者の共通理解を深め、きめ細やかな指導を展開する。	・生徒の意識の变革を起こしたか。 個人面談2回、保護者面談1回を実施できたか。 ・各種説明会への保護者の参加はあったか。	話などの中で、最後まで実力を磨き、一般受験にチャレンジすることの大切さについて、意識啓発に努めている。 ガイダンスや面談を予定通り実施し、きめ細やかな指導に努めているが各種説明会への保護者の参加数は少なかった。	立大学への合格者が出るなど、チャレンジの成果も出ている。 6月と11月に個人面談、夏休みに3者面談を実施した。進路指導計画の中に位置づけより一層有効に活用したい。	護者まで案内が伝わってこない。1年に1度は担任の先生に会ってお話したいし、そうしないと顔も覚えられない。	扱、受験方法等の支援ができた。一般受験に向けて10月にガイダンスを実施する。	に活かす。 第1志望の達成率を全生徒の共通の目標とし、キャリアガイダンスとその成果の指標として経年変化を追う。	
4	地域等との協働	HPを活用して学校行事など本校の教育活動を地域に広報し、理解を深めてもらうとともに地域に貢献できる本校の役割を研究する。 海老名市や地元自治会などと連携し、災害への備え・対応を徹底する。	本校の教育活動を広く発信し、地域との連携・協働活動を進めていく。 シェイクアウト訓練やDIGなど様々な防災教育活動を通して、生徒の「自助・共助」の意識を高める。 ・防災意識を高め、地域と連携して地震・洪水等大規模災害発生時の避難体制を整備する。	地域が求める情報を提供する。 ・中学生へのHPなどでの広報活動を強化する。進路選択に向けて最新の情報を提供し、引き続き選ばれる高校を目指して、更新を迅速にする。 ・地域の小中学校などとの連携活動を通じて、生徒一人ひとりが社会の中での役割と責任を果たせる機会を増やす。 機会あるごとに防災を意識させるとともに、地域と連携した防災計画を策定し、協働して防災訓練を実施する。	地域や中学生、保護者が必要とする情報を、適時に発信できたか。 ・月1回以上新情報に更新できたか。 ・地域の教育機関等との連携ができたか。 地域と連携した防災計画を策定できたか。また、協働して防災訓練を実施できたか。	HPを活用し、学校行事や部活動の戦績などを、適時更新した。 ・第1回学校評議員会を実施し、地域の評議員に学校の様子を説明した。また、広報誌を郵送し、学校理解の助けとした。 5月に全校の防災訓練を行った。9月には1年対象の日帰り防災訓練を、海老名市と協働して行った。教職員用の非常食の整理も行った。	より多くの部活動の様子を提示していきたい。 1年対象日帰り防災訓練は、授業時間の確保の関係から、よりコンパクトで実効性のある計画にしたい。	HPを楽しみに見ている。姉妹校訪問の第一報も拝見した。やや更新が遅くリンク切れもみられる。情報の迅速な発信をお願いする。 ・部活動の紹介は戦績だけでなく、普段の活動の様子なども伝えてほしい。	HPを活用し学校の様子を伝えているが、不十分であるので、更に充実させていく。 海老名市と連携した1学年対象の防災体験訓練を成功させた。	HPの更なる進化を模索する。「ここに入りたい!」と思えるような、在校生の生き生きした活動の姿をタイムリーに発信する。
5	学校管理 学校運営	IT環境の整備改善を推進する。 個人情報及び行政文書の適切な管理を推進する。 学びを支え、快適で安心・安全な教育環境の整備に努めるとともに、事故・不祥事防止の徹底を図る。	ICTを活用した授業ができる環境を整える。 個人情報の対策重要度分類表及び行政文書管理規則に則った適切な文書管理を実施する。 生徒が安全かつ快適に学校生活を送ることができる校内環境を整備する。 ・情報管理や財務関係の事故防止、安全管理に努める。 ・調査書等の発出文書のミスを根絶する。 ・引き続き入選事故のゼロを目指す。	タブレット、書画カメラなどを授業で活用するための使い方を研修会などで周知し、また利用しやすい管理体制を整える。 個人情報の取り扱いについての理解を徹底するとともに、管理簿や持ち出し許可願いなどを整えて適切に運用する。 ・起案を始めとする行政文書の適切なファイリングや施錠管理、および文書の引継ぎを徹底する。 ・引出等の鍵を整備する。 校内各箇所を再点検し、必要に応じて安全対策を講じ、快適な学習・生活環境の維持に取り組む。 ・私費会計の手引きを策定し事故防止に資する。 ・業務全般において、「ほう・れん・そう」および「確認・点検」を徹底し、事故・不祥事のない校務運営に努める。	ICTの活用方法を周知し、利用率が高まったか。 個人情報の紛失など不適切な事案がなかったか。 ・各グループの起案などの行政文書が適切に管理され、利用され、次担当へ引き継がれたか。 生徒への安全対策が適切であったか。 ・事故防止の観点に立って、県費・私費や個人情報が適切に取り扱えたか。 ・発出文書にミスは無かったか。 ・入選事故は無かったか。	今後ICTの研修会を計画・実施する。 教務手帳の適切な管理に向けて、職員室中央にロッカーを整備した。 ・起案ファイルが机上などに埋もれて決裁遅延事故を起こすのを防ぐため、起案のファイルの色分けを行った。 老朽化している生徒の下足箱を新しくした。 ・私費会計ハンドブックを策定した。 ・事故防止会議や朝の打ち合わせの標語などで、職員のコンプライアンス意識の向上を推進している。	秋の授業研究前に実施したい。 ファイリングの漏れがなく適切に業務が引き継がれるよう、環境整備に努める。 今後も気を緩めず、事故防止に努める。 ・8月末に体罰・セクハラ防止の研修を外部講師を招いて行った。 ・調査書や要録の点検体制をさらに整備する。	1年生の下駄箱が新しく交換されて、昇降口が明るくなってよかった。教室・トイレ・水道場など清潔で明るい教育環境の整備に、これからも尽力してほしい。 新聞に出るような不適切指導や事故等の無い、安全安心な学校づくりを宜しくお話ししたい。	教務情報Gで企画段階である。 教務手帳ロッカーの運用を開始した。 職員の法令順守意識や私費会計事務能力が向上している。 ・要録・調査書の作成点検マニュアルを改定整備した。	来年度に向け年間計画に具体的な研修計画が入るよう企画していく。 体育館2階外通路の天蓋等の修理改善にも努めたい。 ・進路、教務事務や入選事故が絶対に無いようにする。